

インターバンクの声（2015年9月29日）

前週末は欧州株式相場が大幅高だったものの、その前に終了していたアジア市場での上海総合指数や日経平均が下落。そしてニューヨーク株式市場では、ダウ平均が上昇する中でS&P500やNASDAQは軟調裏に終わっていた。そこで大いに注目されたのが週初の株式市場だったが、イエレン米連邦制度理事会（FRB）議長が年内の利上げ開始の可能性が高いことを示唆して数日経過、訪米した習近平主席が足許の中国経済に大きな不安がないことなどを表明し、金融市場の先行き不安も薄らいだようにも見えていたが、世界中の株式市場は上海総合指数が横這いだったことを除けば、ほぼ全面的な大幅下落となった。とりわけ厳しい下落となったストックス欧州600指数では、資源商社グレンコアが30%近く下落し、不正問題で揺れるフォルクスワーゲンも7%超も下落した。フォルクスワーゲンの下落は個別理由によるが、グレンコアの下落には中国経済への懸念が大きく反映されているようだ。昨日の株式市場の値動きだけからでは判断できないが、世界経済が下向きに動き始めたと意識する投資家が増えてきたとなると、買える通貨も非常に限られてくることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。